

俳句

やまざきせいしやう

山崎青鐘



宇部市

(1908～1974)

昭和六年に大阪齒科医専を卒業。三年後に炭鉱景気に湧く桜町という花柳街にて開業。学生時代より虚子の『ホトトギス』で頭角を現すも、反骨精神で脱会。自分達の俳誌を出す。当時は出版物の検閲が厳しく、前衛俳句の伝統や権威を無視した感性を危険思想と見なされ、同人数人と刑務所に拘禁されていた。戦後解放されて、俳誌『青鞥』三十三号まで出し、『風見鶏』『らんどる』等、多くの弟子に囲まれていたが、齒科医院の方は余り本気でなかった。元憲兵・警察署長等も、氏の新鮮な感性や論理に教示を仰いだ。絵画・音楽にも造詣が深かった。

(奥野保正)

【主な著作】

句集『風見鶏』(昭和36年)

『現代俳句の周辺』(其桃発行所、昭和38年)

句集『無辺』(俳句評論社、昭和43年)